

遺伝子組み換え作物の現状と消費者の意識

バイテク情報普及会
事務局 鈴木正宏





バイテク情報普及会

COUNCIL FOR BIOTECHNOLOGY INFORMATION JAPAN

設立: 2001年10月1日（2008年4月1日事務局開設）
「クroppライフ」傘下の団体

ビジョン:

- 世界人口の増大(90億)を見据え、食料の安定供給に貢献する
- 環境負荷の軽減を図り、「持続可能な農業」の実現に向け貢献する

ミッション:

- サイエンスベースで透明性ある許認可システムの構築を支援し、世界におけるGMOの発展拡大を手助けする
- バイオテクノロジーについて、全てのステークホルダーがその重要性を認識して頂けるよう、必要な普及活動を行う

会員:

BASFジャパン株式会社
バイエルクroppサイエンス株式会社
ダウ・ケミカル日本株式会社
デュポン株式会社
日本モンサント株式会社
シンジェンタジャパン株式会社

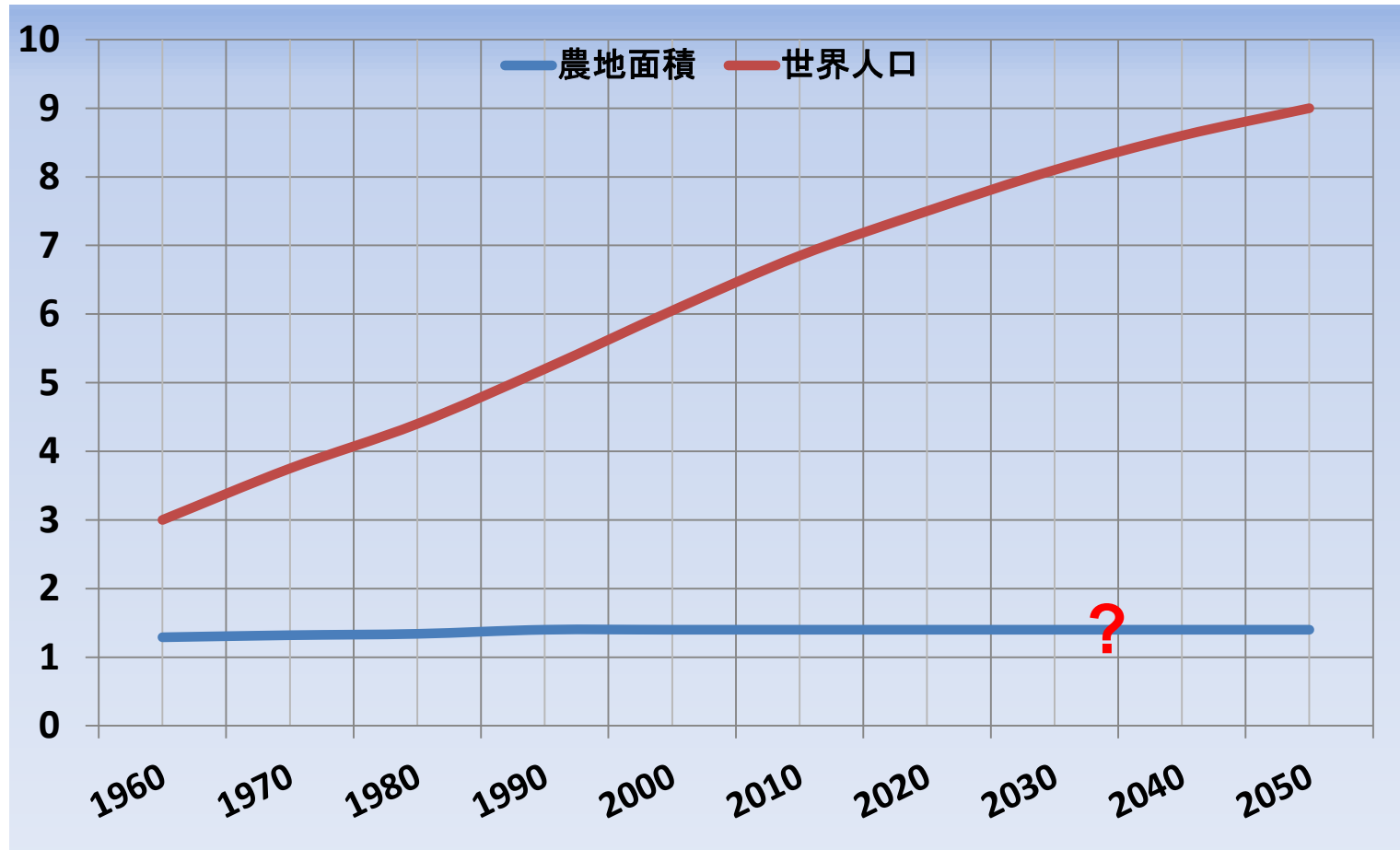
ホームページ: <http://www.cbijapan.com>



バイテク情報普及会

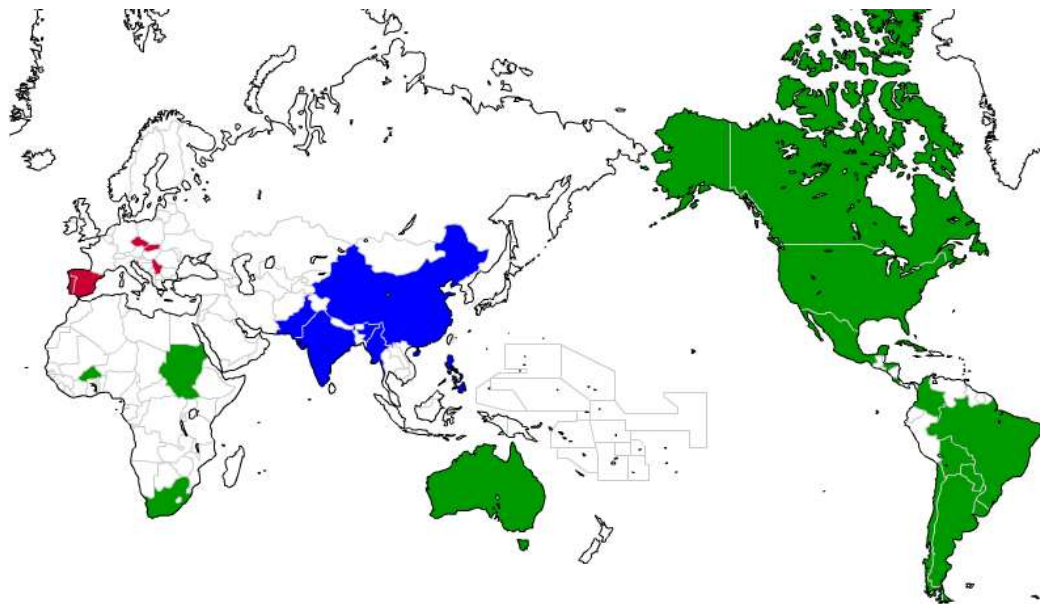
世界の人口増加と限られた農地

単位 人口:10億人
農地:10億ヘクタール



出典: CLI 2012 世界食糧デイ プレゼン資料

遺伝子組み換え作物の世界の栽培状況 (2012年)



- アジアの遺伝子組み換え作物栽培国
- EUの遺伝子組み換え作物栽培国
- その他の遺伝子組み換え作物栽培国

遺伝子組み換え作物栽培面積(2012): 1億7,030万ha

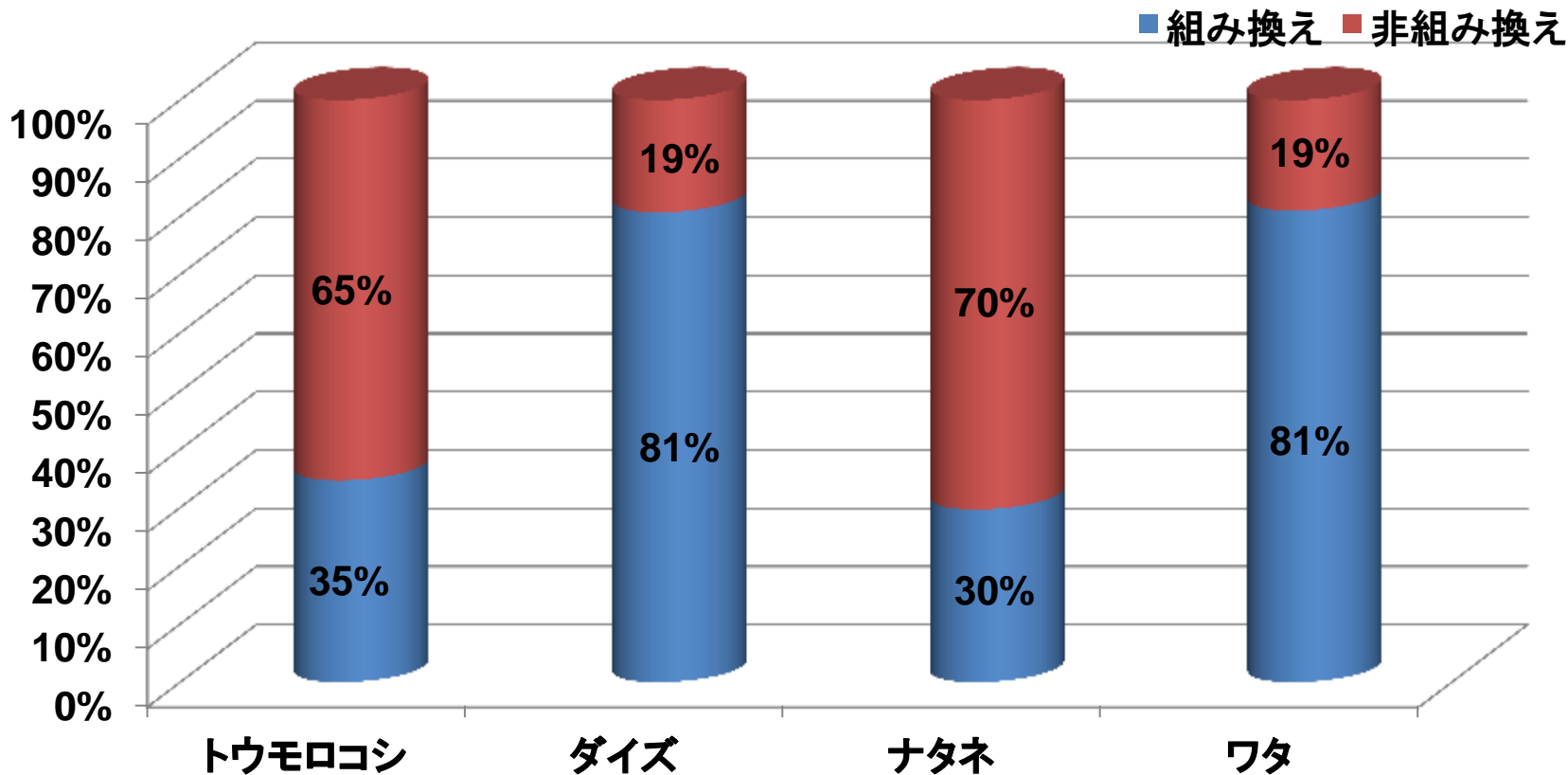
遺伝子組み換え作物栽培国 (全28カ国) 栽培面積 (100万ha)

1	米国	69.5
2	ブラジル	36.6
3	アルゼンチン	23.9
4	カナダ	11.6
5	インド	10.8
6	中国	4.0
7	パラグアイ	3.4
8	南アフリカ	2.9
9	パキスタン	2.8
10	ウルグアイ	1.4
11	ボリビア	1.0
12	フィリピン	0.8
13	オーストラリア	0.7
14	ブルキナファソ	0.3
15	ミャンマー	0.3
16	メキシコ	0.2
17	スペイン	0.1
18	チリ	0.1

栽培面積が5万ha以下の国々
 コロンビア、ホンジュラス、スーダン、**ポルトガル**、**チェコ共和国**、キューバ、エジプト、**コスタリカ**、**ルーマニア**、**スロバキア**

出典: ISAAA Clive James, 2012.

主要作物の遺伝子組み換え割合（2012年）



総栽培面積	15,900万ha	10,000万ha	3,100万ha	3,000万ha
組み換え作物栽培国	17カ国 米国、ブラジル、アルゼンチン、カナダ、南アフリカ、ウルグアイ、フィリピン、スペイン、他9カ国	11カ国 米国、ブラジル、アルゼンチン、カナダ、パラグアイ、南アフリカ、ウルグアイ、ボリビア、メキシコ、チリ、コスタリカ	4カ国 米国、カナダ、オーストラリア、チリ	15カ国 米国、ブラジル、アルゼンチン、インド、中国、パキスタン、南アフリカ、オーストラリア、ミャンマー、他6カ国

出典: ISAAA Clive James, 2012.

日本の遺伝子組み換え作物の輸入量推定(2012年)

作物	日本への主要輸出国	作物の 総輸入量 (単位:千トン) (A)	内組み換え作物 の推定輸入量 (単位:千トン) (B)	組み換え作物 推定輸入比率 (C)
トウモロコシ	米国、ブラジル、ウクライナ、アルゼンチン	14,891	11,656	78%
ダイズ	米国、ブラジル、カナダ	2,727	2,472	91%
ナタネ	カナダ、オーストラリア	2,408	2,281	95%
ワタ	オーストラリア、米国	116	114	98%
合計		20,142	16,523	82%

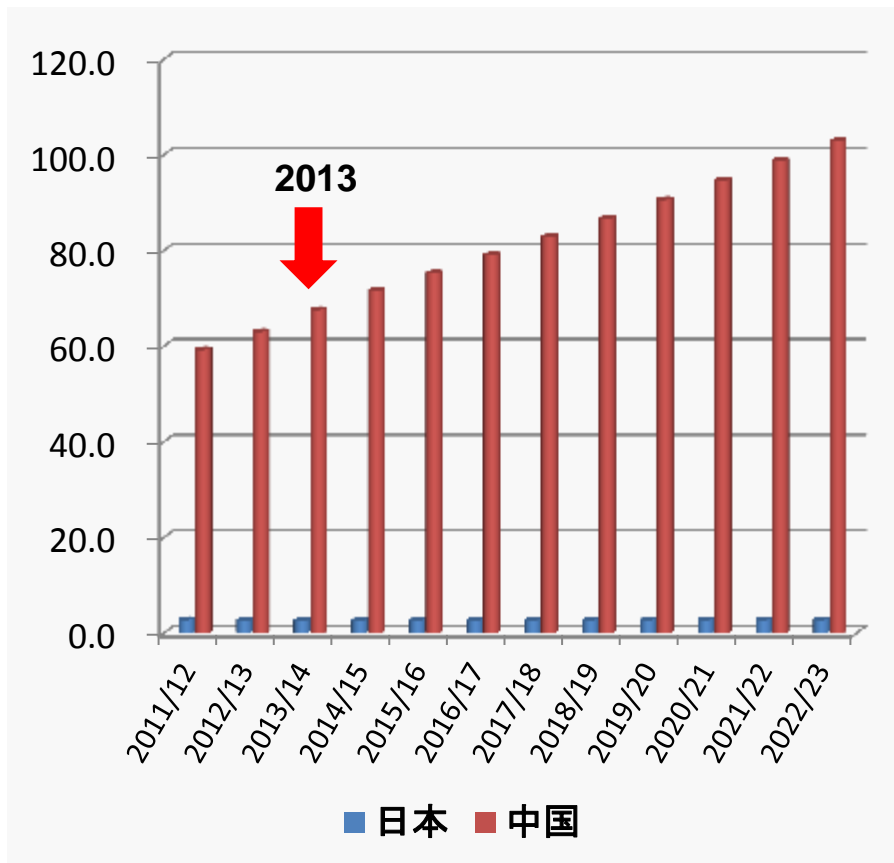
(B): 各国からの輸入量に、其々の輸出国での遺伝子組み換え作物の栽培比率を掛け、足し合わせた数量
(C): 組み換え作物の推定輸入量**(B)**を、その作物の総輸入量**(A)**で割って得られた比率

日本のダイズ自給率は6%、トウモロコシとナタネの自給率は0%

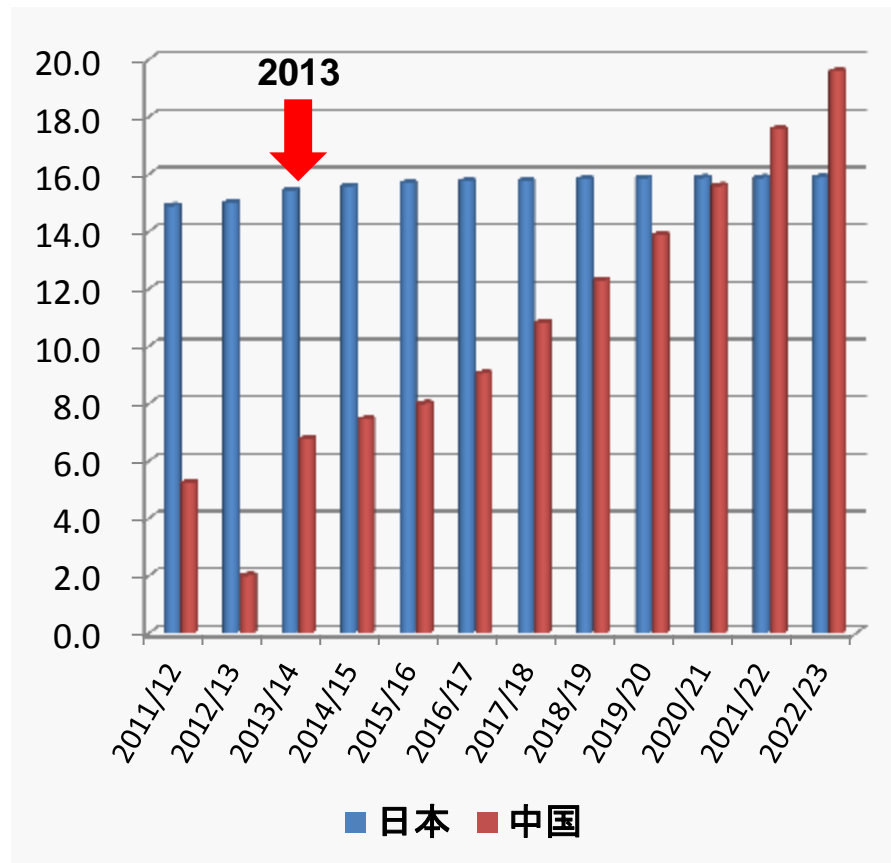
出典:財務省貿易統計、米国農務省/ISAAAによる集計(2012年)

ダイズとトウモロコシの輸入量見通し(日本と中国)

ダイズの輸入量 (単位100万トン)



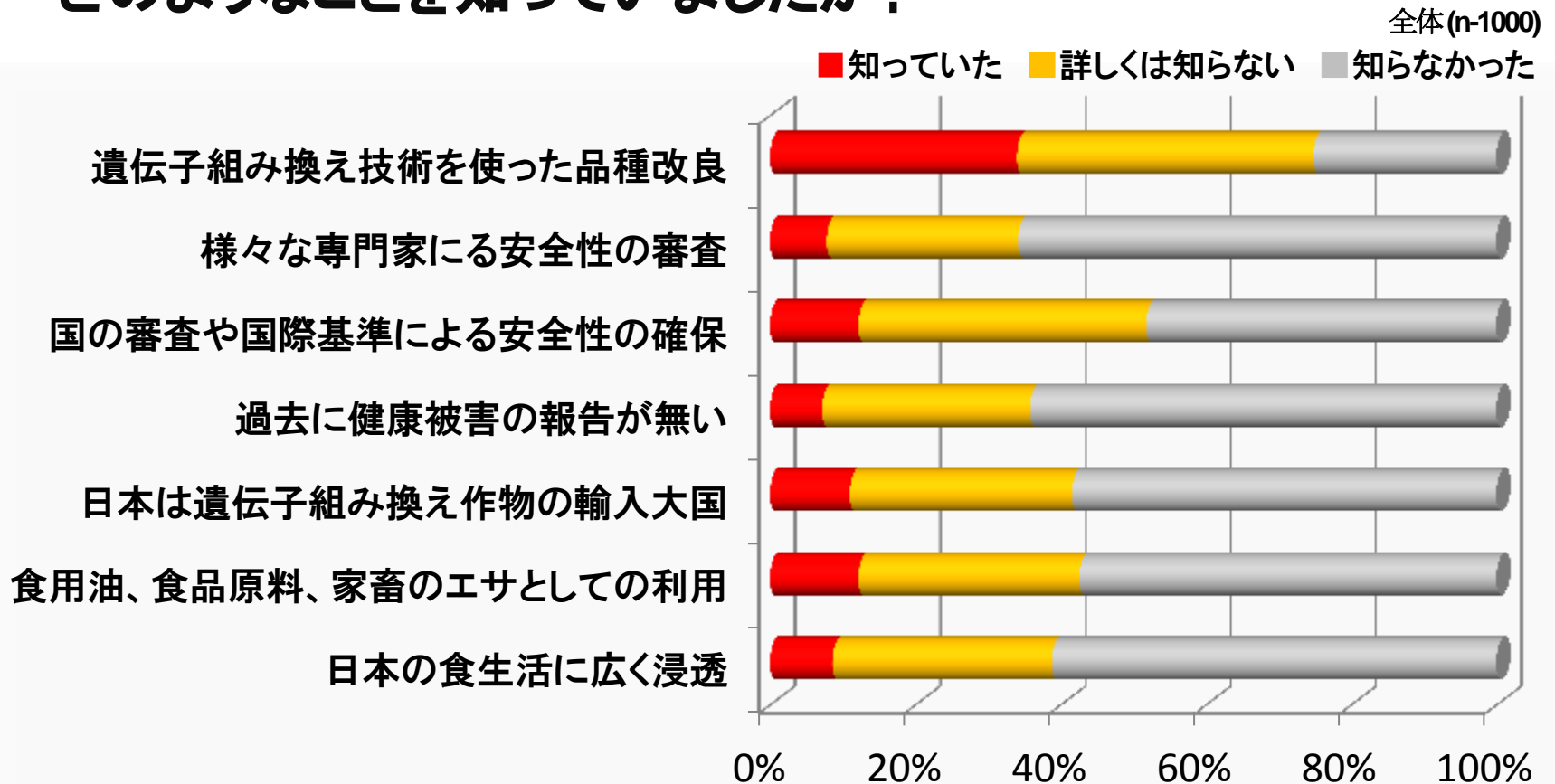
トウモロコシの輸入量 (単位100万トン)



出典: USDA Baseline Projections

遺伝子組み換え食品に対する消費者の意識調査

どのようなことを知っていましたか？



バイオテック情報普及会による消費者調査 2012年12月

遺伝子組み換え食品に対する消費者の意識調査

遺伝子組み換え食品に対して消費者の受容が高まったメッセージ

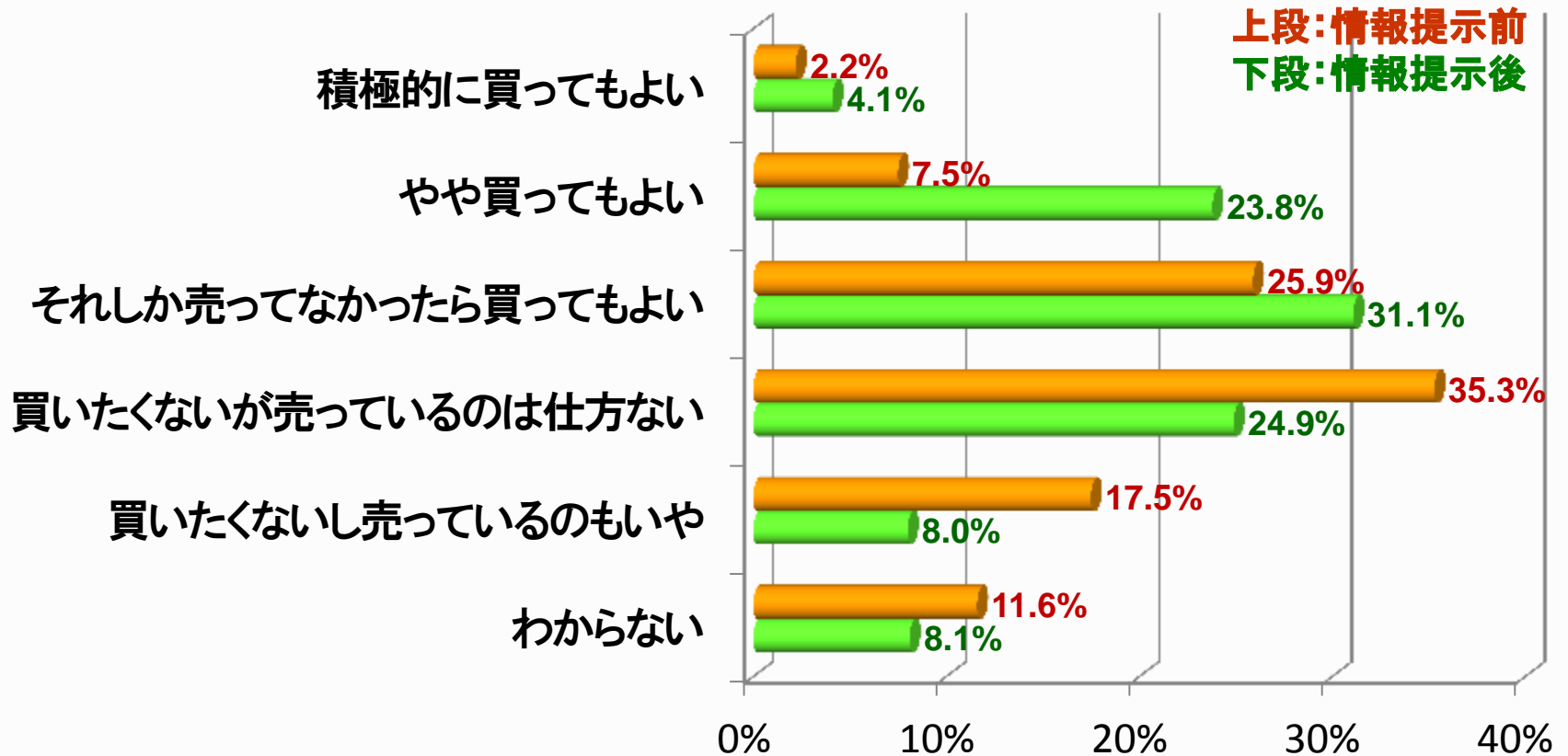
- 遺伝子組み換え作物は、遺伝子組み換え技術を用いて品種改良された作物です。
- 遺伝子組み換え作物は、食物アレルギー、微生物学、植物学、農学など、各分野の専門家が参画する、国際基準に基づく国の審査によって、安全性が確保されています。製品化されてから17年がたちますが、健康への影響は報告されていません。
- 日本は、おコメの国内消費量の倍もの量の遺伝子組み換え作物（大豆、トウモロコシなど）を輸入している、遺伝子組み換え作物の輸入大国です。
- 遺伝子組み換え作物は、食用油、コーンスターチ・甘味料などの原料や、家畜（牛・豚・にわとり）のエサとなります。そして、私たちが店頭で目にするドレッシングや即席めんなど油を使用した加工食品や飲料、食肉・卵・乳製品など、多くの食品にいかされ、日本の食生活を支えています。



遺伝子組み換え食品に対する消費者の意識調査

情報提示による意識変化

全体 (n=1000)



バイテク情報普及会による消費者調査 2012年12月

調査から得られた示唆

遺伝子組み換え食品にまつわる安全性評価の仕組みや輸入の実態などの具体的な事実について、殆どの人(約9割)は知らない。

- 遺伝子組み換え技術を用いて品種改良された作物
- 安全性が確認されている
- 健康への影響は報告されていない
- 日本はGM作物の輸入大国で、それらを原料とした食品が広く普及し、日本の食生活を支えている

遺伝子組み換え食品に対する不安感の緩和(納得)

受容意識の向上

メディア、食品メーカー・団体、行政機関などからの積極的な情報発信に対する期待



本日の講演のテーマ

- 遺伝子組み換え作物を含む食品や食品に含まれる成分の安全性評価: 動物実験の現状と課題



- 消費者への食品安全情報の伝え方

